教科等研究会（小・中学校特別支援教育Ⅲ部会）

令和４年度　研究活動のまとめ

１　研究テーマ

子どもの姿から出発する「分かる・できる」「楽しい」授業づくり
～一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業づくりの工夫～

２　研究経過

第１回			第２回			第３回			第４回		
６/６	22名	津森小	8/19	甲佐小	実践交流 講話	11/14	嘉島町 町民会館	事例 検討	1/26	津森小	実践発表 (全員)

３　研究の概要

(1) 研究の内容

○第１回

肢体不自由・病弱・難聴の３部会に分かれ、障がい種ごとの理事（まとめ役）と動画発表者（第４回）を決めて、第２回の講話の中で聞きたいことを出し合った。

○第２回

障がい種別の３部会で日頃の実践について紹介し、質問やアドバイスをし合った。また，肢体不自由と病弱部会は松橋東支援学校の小川俊郎教諭から、難聴部会は、熊本聾学校の斎藤尚美教諭から各会員からの質問に沿う内容の講話をしていただいた。これからの実践に生かしたいという感想が多かった。第３回の内容について各部会で話し合った。

○第３回

第２回の講話を参考にした各自の実践の成果と課題に関する事例検討を障がい種ごとに行った。第４回に知りたい情報や自立活動の内容等を確認し合った。

○第４回

障がい種別に自立活動に関する発表者の動画を視聴し、質疑応答や意見交流を行った。特に参考になった動画は、部会終了後の全体会で紹介し共有した。

(2) 成果と課題

①成果

○障がい種ごとに分けて活動したことで、担任する児童に役立つ情報の共有がしやすくなり，講師の先生や同じ障がい種の部会に属する専門的な知識を有する先生方から支援の方法や自立活動の内容に関するアドバイスやヒントをもらうことができた。これらを参考にして、自らが担任する児童の実態に合わせてアレンジした実践ができた。

○動画提供を一単位時間（４５分）全てではなく自立活動の一コマの紹介としたので、多くの先生が動画を持ち寄ることにつながった。他の先生方に紹介する活動を考えたことで、教師一人一人が担任児童の教育的ニーズについて改めて考え、これまでの自らの実践を振り返るきっかけになった。

②課題

▼研修内容の専門性を優先し、ほとんどの研修を障がい種別の部会に分かれて行ったことで、他の部会の活動が見えにくかった。

４　実践事例

【津森小学校難聴学級　上土井　恭子教諭　第４学年国語科「伝わる言葉　慣用句」の実践】

(1) 授業の概要

マスク着用のために周囲の会話から新しい言葉や言い回しに自然に触れることが難しい。そこで、言葉や表現を増やす学習（季節や行事に関する言葉・外国語表現・気持ちに関する言葉・各教科に特有の表現）を取り入れている。今回は、教科書で扱っている慣用句を日常的に使うことにつながるような学習を仕組んだ。本時では、教師と競争して楽しく慣用句を使った文づくりができた。授業後も新しく学習した表現を日記等で使おうとするようになった。これからも取組を続けたい。

(2) **学習構想案　本時のみ抜粋**　（○発問　・指示　◇予想される児童の反応）

過程	時間 （分）	学習活動 （◇予想される児童の発言）	指導上の留意事項 （学習活動の目的・意図，内容，方法等）
つかむ	1 10	1学習を見通す。 ○今日の学習は、①～②～・・・です。 2帯活動をする。 ①めあての振り返り ②１１月の言葉 ◇○○は、また明日がんばろう。 ③言葉の学習	○今日の活動を確かめ、見通しを持たせる。 ○振り返ることで、次への意欲につながるようにする。 ○季節の行事や植物，英語での月日・曜日などの言い方などを反復練習し、自信を持たせる。 ○意味を確かめながら言葉を当てはめさせることで、新しい言葉にふれるきっかけとする。
追究する	２９	3本時の活動 ①めあてを確かめる。 ○慣用句はどんな言葉でしたか。 ◇「言葉が組み合わさって、新しい意味をもった決まり文句」です。 ○今日は、慣用句を文の中で使えるように練習しましょう。 慣用句を使った文をつくることができる。 ②これまでに調べた慣用句を振り返る。 ○これまでに扱った慣用句を振り返りましょう。 ◇だいぶ覚えられた。 ③慣用句を使った文を考える。 ・慣用句の意味に合う言葉を考えて、文を完成させましょう。 ◇どんな言葉を入れたらいいかな。 ・発表を聞きあって、良い所を教え合いましょう。 ◇しっかり考えて褒められた。 ④日記に慣用句を使っている文章を提示する。 ・慣用句がどこに使ってあるかさがしましょう。 ○慣用句を使うと、どんなことがよく伝わるでしょう。 ◇直接気持ちを書かなくても、思っていることが伝わる。	○慣用句とはどんな言葉だったかを確認する。 ○めあてを視写・音読させ、意識付けをする。 ○完成した文は学級通信で交流学級の友達や家族に紹介することを知らせて、意欲付けする。 ○これまでに意味を調べた慣用句を確かめ、これを文中で使うことを知らせる。 ○通常行っている帯活動のように、視覚的に意味が捉えやすいように写真やイラストを活用する。 ○提示された慣用句を使った文を見て、自分の経験や想像からあてはまる言葉を考えさせる。 **（個に応じた支援）** ○何を書いたらよいか迷う場合は、具体的な場面を設定して考えやすいようにする。 ○教師も同時に考え、つくった文を互いに見せて感想を述べ合い、自分の作った文のよいところを意識できるようにする。 ○互いの文章を見ていいなと思ったことを話す時間をとり、自信を持てるようにする。 **【具体の評価規準】思Ｂ（１）ア** ○経験・想像したことなどから書くことを選び、慣用句にふさわしい状況を伝える文章を整えている。（シート・発言） ○日常的に書く文章でも、使えることを理解させる。 ○慣用句の使ってあるところに注目させ、よさを考えさせる。 ○「○○がよく伝わる。」のように、何が伝わりやすいかを考えさせ、日常的に使う意欲に結び付くようにする。 **（個に応じた支援）** ○必要であれば、これまでに学習した慣用句を使った文を振り返って参考にできるようにする。
まとめる	5	4　今日の学習を振り返る。 ○振り返りカードに、分かったこと・思ったこと・感想などを書きましょう。 ・発表しましょう。	○慣用句を使った文を完成させたことを賞賛し、日常的に日記などで使う意欲付けとする。

【広安小学校病弱学級　板井　宏基教諭　第６学年自立活動「体を上手に動かそう」の実践】

(1)授業の概要

学習をすることで、動かすことができなかった部位を動かし、体を動かす楽しさを感じていた。以前よりも、リズムに合わせて動いたりバランスを上手にとったりできるようになってきた。運動制限がある中、自分の体を自在に動かそうとする姿が見られた。五指の運動の内容を考え、もっと楽しく自在に動かせるようにしていかなければならない。また、集中力も持続できる方法も考えていかなければならない。

(2)学習構想案（抜粋）

①単元について

単元の目標	(1)指を自在に動かし、じゃんけんや指で数を表すことができるようになる。 (2)教師の動きを模倣して各部位を動かすことができるようになる。 (3)一本橋やスポンジボードでバランスよく移動したり、態勢を保持したりすることができるようになる。		
自立活動における評価	健康の保持	身体の動き	コミュニケーション
	○自分の健康状態にあった体の動きをすることができる。【１－（５）】	○示通りに五指や腕を動かすことができる。【５－（２）】 ○バランスよく移動することができる。【５－（４）】	○名前を呼ばれたり、確認をしたりするときに動作で答えることができる。【６－（４）】

単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）	
五指を自在に動かすことができ、バランスよく一本橋を歩く児童。	
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）	**本単元で働かせる見方・考え方**
自分の体の部位を動かそう。	体を自在に動かすことを学習することで、日常生活でのコミュニケーションツールとして活用したり、転倒しそうな時に適切な動きをしたりすることができるようになること。

指導計画と評価計画（３６時間取扱い　本時１９／３６時間）

過程	時間	学習活動	評価の観点等
一	1 (19/36)	○教師の示す指や手の動き（形）を模倣する。 ○教師の示す指や腕の動きに合わせて、指・腕を動かす。 ○ゆっくりとしたリズムに合わせて手拍子やボディーパーカッションをする。 ○一本橋スラロームやバランススポンジを落ちないように移動する。 ○タブレットを使って、座位での動きを真似する。	○指の形や手の動きに近い動きを真似することができる。（行動観察） ○示された指・腕の動き、形に近づけることができる。（行動観察） ○リズムに合わせて手拍子やボディーパーカッションをすることができる。（行動観察） ○バランスを取りながら、落ちないように移動することができる。（行動観察） ○動きを真似することができる。（行動観察）

○指から腕や体へと、小さな部位から動かす部位を徐々に広げていく。ゆっくりとしたペースで、それぞれの部位に負担がないようにする。動画を見たり、学習が楽しくなったりして、気持ちが上がると動きが激しくなってくるので、声かけをしながら落ち着いたリズムで体を動かすようにしていく。

②展開

過程	時間	学習活動（◇予想される児童の発言）	指導上の留意事項（学習活動の目的・意図，内容，方法等）
導入	5分	１　挨拶をする。 **【めあて】　気持ちよく体を動かそう**	○正しい姿勢をとって、あいさつをする。
展開	37分	２　体の部位を動かす。 ①　指の運動を行う。 ・１・１、グー・パー・パチン ・右手で１、左手で２、パー・パチン ②　腕を動かす。 ・右腕上げて下げて、左腕上げて下げる ・右腕上げて、左腕上げて、右腕下げて左腕下げる ・両腕上げて、横に上げて、前にならい下げるをする。 ③　リズムをつけて動かす。（ボディーパーカッション） ・１・２で手拍子３・４で腿をたたく ④　一本橋スラローム ⑤　スポンジバランス ⑥　動画を見て体を動かす。 **【期待される学びの姿】** 笑顔で体を動かしている。	○ゆっくりとしたリズムから徐々にスピードを速くしていく。 ○右手では、２ができないので「１」を作らせ、左手は２までできるので「２」を作らせて行う。 ○できるだけ肘を伸ばしてあげられるようにする。 ○下げるがうまくいかないときは手を添えて動きを教える。 ○ゆっくりとしたリズムから徐々に早くしていく。 ○横上げ、前にならいは少し難しいので、手を添えて動きを教える。 **【具体の評価規準】観点** ○体の部位を楽しく動かすことができる。**（方法：行動観** ○ゆっくりとしたリズムから徐々に早くする。 〈目標に達しない生徒への手立て〉 手本を見せながら，手を添えてゆっくり動きをしていく。 ○できるだけ落ちないように歩かせる。 ○前に立って先にわたっていく。 ○４つをバランスを取りながら歩く。できるだけ落ちないように渡らせる。 ○タブレットを使いYouTubeでラジオ体操１・２を座位で行う。
終末	3分	３　学習を振り返る。 **【まとめ】** **自在に体を動かせると、楽しく、気持ちよくなることが分かる。**	○評価カードを示して選ばせる。 ・難しかった・楽しかった・頑張った

【広安小学校肢体不自由学級　上塚　達朗教諭　自立活動「ものをよく見よう」の実践】

(1)授業の概要

水分補給をするときに、対象物であるマグスパウトを見ずに手を伸ばしたり、一瞬見るだけで細かく見たり見続けたりすることが難しい。手に触れてもすぐに落としたりしてしまいがちであるので、次の行動にうまくつながらず、目的を達成することができないことが多い。そこで、追視する力をつける授業を考えた。実際にやってみると、児童が対象物に興味を示さないときがあったので、課題を変えたり休憩を取ったりした。すぐには変化が表れないが、毎日繰り返すことにより、少しずつ変容が見られるので、児童がやりたいと思う、必要感を感じられる教材教具の工夫をしながら、あきらめずに繰り返していきたい。

(2)学習構想案（抜粋）

①単元について

単元の目標	動くものに興味を持ち、目で追い続けることができる。			
自立活動における評価	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	○教師と物の受け渡しができる。【3-(1)】	目で見て物体を把握し、追視し、手の力を加減して動いているものをつかもうとする。【４-(1)】	○安定した剤を確保しながら、両手を体の前へ伸ばすことができる。【5-(3)】	○物の受け渡しができる。【6-(1)】
単元終了時の児童の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）				
動くものを目で追い、それをつかんで手渡しをすることができる。				
単元を通した学習課題（単元の中心的な学習課題）			本単元で働かせる見方・考え方	
動く車をつかまえよう			動いている物に興味を持ち、追いかけようとする。	

○本単元で使用するおもちゃは 4 本の坂道を組み合わせたもので、坂道を行ったり来たりする色の違う5台の車は、いろいろな動物をモチーフにしている。出てくる動物は今までの学習で扱ったもので児童の関心を引きやすく、色の学習にもつなげることができ、誤飲しない大きさのものである。走行音や落下音があり、視覚だけでなく聴覚や触覚、嗅覚に働きかけることができる教材である。

○指導に当たっての留意点　提示する物は大きさを工夫し、素材は安全なものにする。粗大動から微小へと進める。適宜休憩をとる。

②展開

過程	時間	学習活動(◇予想される児童の反応)	指導上の留意事項(目的･意図, 内容, 方法等)
導入	5分	1 ボールタッチゲーム ◇ボールを見る。ボールを触ろうとする。 **【めあて】動くものを目で追ってみよう。**	○初めはボールを隠し、急に目の前に現れるように提示し、動かし方に変化をつけて興味を引く ○児童の姿勢やボールとの距離を適切にする。
展開	39分	2 動くボールにタッチする。 ・つるした横揺れするボールにタッチ。 ・つるした前後に動くボールにタッチ。 3 動く車を目で追ってつかむ ・象がモチーフの車を見て象の鳴き声等を聞く ◇車を見る。 ・動く車を見る。◇くるまをつかもうとする。 ・経路が見える車を追視する。◇目で追う。 ・車の動きをスローモーションで見る。 ・経路を隠してどこに車があるかを想像させる。 ◇車を隠したボードを触ろうとする。 ・動く車を手でつかむ。◇車をつかもうとする。	○ボールを追視させる。 〈目標に達しない生徒への手立て〉 揺らし方や児童とボールの距離を変えてみる。 ○色について話したり車のモチーフになっている動物の鳴き声等を聞かせたりして車に対する認識を強める。 ○車の動かし方を工夫して追視させる。 ○実際の車の動きが速いので見やすくする。 ○車が見えなくても、あることを認識させる。 ○動画のスロー再生や一時停止機能を使い、見えなくなった車を認識しやすくする。 **【具体の評価規準】観点** ○動く車を目で追って手でつかもうとする。 **（行動観察）**
終末	1分	4 目で追うと自分の欲しいものを手に入れ、欲求を満たすことができることを感じる。◇笑顔 **【まとめ】ものをよく見て目で追うと自分の願いがかなえられる。**	○教師の笑顔や声の表情、ブザーの音や笑顔のマークで褒められたことが分かりやすくする。